

## 評価結果

### 1. 療護センター

#### (1) 運営経費の節減に対する取組み

運営経費については、建物管理業務等の外部委託業務費の節減及び外部受託検査件数の増加等により、平成14年度に比し改善されており、運営経費の節減に向けた一定の努力は認められる。

療護センターは遷延性意識障害者に対する治療及び看護を行う特殊性から一般病院とは異なるものの、今後とも、外部委託費の縮減及び外部受託検査による増収等の運営経費の節減に向けた方策を引き続き着実に実施して、業務運営の効率化に取り組む必要がある。

#### (2) サービス水準の向上に対する取組み

千葉療護センター増床工事の完了や最新医療機器の活用、患者家族への支援、地域医療への貢献によりサービス水準の向上が図られており、これにより脱却患者数が増加傾向に推移している等、一定の効果は認められるが、今後、より細かな治療効果測定方法の開発、療護センターの成果を在宅介護者・一般病院等に幅広く提供すること等サービス水準の向上に向けた取組みを着実に実施していく必要がある。

### 2. 自動車アセスメント

#### (1) 試験実施方法等の合理化とコスト削減

1試験当りの試験実施費は試験準備の確認項目の見直しにより平成14年度に比較して年度計画以上に改善されており、業務運営の効率化に向けた努力は認められる。今後とも試験の実施にあたっては、合理化、効率化を図り、引き続き業務運営の効率化に取り組む必要がある。

#### (2) 安全性の向上

自動車の安全性能については、車種別タイプの総合評価(★の数)の直近2カ年平均値を見ると、13年度と14年度の平均値に比べ15年度と16年度の平均値は向上しており、安全な車の普及が認められる。また、平成15年度に開始された歩行者頭部保護性能試験については、平成16年度に相当の改善が認められる。引き続き安全性の向上に取り組む必要がある。

#### (3) 新たな試験・評価法への取組み

側面衝突試験の調査研究、実事故データと総合評価の相関分析に加えて、スタビリティ・コントロール・システムの事故防止効果についての調査研究を行っており、新たな試験・評価法策定のための努力が認められる。引き続き、交通事故の実態を踏まえ、また交通事故を未然に防止することも含め、試験方法等の策定・見直しに向けた調査研究に取り組む必要がある。

(4) 情報提供方法についての改善と広報の拡大

ユーザーニーズを踏まえ、ホームページの改善、年2回の公表、試験結果発表会の開催等情報提供の改善やパンフレットの配布先拡大についての努力は認められる。引き続き情報提供方法の改善等に努め、パンフレットの配布先についての一層の拡大や諸外国の安全情報について、ホームページで紹介する取組みが必要である。